

学校名	豊島区立 千川 中学校
校長名	牧 野 崇

学校の教育目標	
○深く考え、自ら学ぶ生徒 ○心あたたかで、礼儀正しい生徒 ○健康で、たくましい生徒	
学力に関する目指す生徒像	
【主体的に学ぶ力】自主的に考え、表現でき、学び続けることのできる生徒	
授業改善推進プランの全体像	
○校舎移転で各教室に配置されたプロジェクター等の機器を有効に使い、教科担当による ICT 機器（Chromebook）を用いた、授業実践を行う。 ○オクリンクやムーブノート、グーグルスライドなどを活用することによって、自主的に考え、表現する生徒の育成を目指す。 めあて／課題の提示 ↓ 展開 見通し 自力解決 学びあい 解説 など ↓ まとめ ↓ 振り返り ICT 機器の活用 ・オクリンクを用いた情報共有 ・ムーブノートを用いた意見交換 ・グーグルスライドを用いたプレゼンテーション ・書画カメラを用いた発表 ・ICT 機器を用いた振り返り ・forms を用いたアンケート作り ・ジャムボードを用いた意見抽出 ・その他、ICT 機器を用いた活動 など 特別支援教室における ICT の活用 新たな学習手段や表現手段として 校内で共有 → 個に応じた指導	
○校内研修の一環として、相互授業見学や意見交換を積極的に行い、授業力向上を図る。 ○ICT サポーターによる個別研修(全員)と各自の用途にあわせた授業支援を依頼する。 ○他校教諭等の授業見学や情報交換を行い、教員の資質向上に努める。	

令和6年度 授業改善推進プラン（各教科）

1 国語科

目指す生徒像を基にした国語科で育成したい資質・能力		
文学的文章、説明的文章、古典的文章を中核とした著者の考え方を読み取り、自らの表現活動へとつなげることでできる資質・能力の育成		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	・区の学力調査によると、言葉の特徴や使い方に関して苦手意識をもつ生徒が多い。 ・読み手を意識した分かりやすい文章を書くことが苦手な生徒が多い。	・漢字や語句に関する活動を毎時間取り組むことより、知識の定着を図る。 ・Google ドキュメントのコメント機能を利用した生徒同士の助言を通し、分かりやすい文章を書く意識を高める。
2年	・発問に対して、積極的に意見を言う生徒が多い。 ・発展的な問いや自分の意見を文章の趣旨に沿って発言するなど、応用的な問いに関しては消極的である。論理的、説明的に取り組むことが苦手である。	・生徒の知的好奇心やレベルに合った問いの工夫。 ・オクリンクやムーブノートなどの ICT 機器を活用して、意見を共有することで自身の意見の参考にできるよう提供する。 ・週に1回、漢字テストを実施することで学習習慣をつけさせ、基礎学力の定着を図る。
3年	・学習に対して積極的に取り組むことが苦手な生徒が多い。 ・音声表現に苦手感を持つ生徒が多い。 ・教材を根拠に論理的・説明的に書くことに課題がある。	・班活動を中核とした課題解決型の授業を行う。各自の考えをスプレッドシートに書かせることにより、消極的な生徒への発言を促す。 ・基礎の定着を図るため、基本問題を繰り返し解き、自信をつけさせる。 ・古典の音読・群読で自信をつけさせ、苦手意識を減らし表現力を高める。 ・単元ごとに「書く」課題を提示し、一人一人の力を高めていく。

2 社会科

目指す生徒像を基にした社会科で育成したい資質・能力		
・社会的事象について、資料の活用や読み取りによって理解を深める能力。 ・理解をもとに、「なぜ、どうして、どうなるのか」などを考察し、表現する能力。 ・学習内容をもとに、より良い社会の実現のために社会参画をする意欲や態度。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	・興味・関心をもって積極的に授業に取り組める生徒が多い。 ・発問に対しても様々な視点から多くの気づきを得ることができる。 ・一方で、読み取った内容を活用して考察をすることや、考えをまとめるなどの表現を苦手とする生徒が多い。	・ねらいや単元を貫く問いを明確に示し、より深い理解と考察につなげられる内容を構成する。 ・Chromebook を活用して繰り返し小テストを行い、基礎的な知識の定着を図る。 ・スライド作成やフォームによる振り返りの提出、さらにフィードバックと改善を行うことで、さらなる表現力の育成に努める。

2 年	・授業に臨む姿勢は積極的な生徒が多い。 ・発問に対しても発言をしたり、思考をしている様子が見られる。 ・課題に対しては仕上げることを目的に、熟慮を重ねて解答することが少なく、理解の定着や深く考えることに課題がある。	・用語の意味や社会的事象の理解といった基礎的な内容の定着のために、配布プリントやミライシードのドリルパークの反復に取り組ませる。 ・授業において、提示する課題の見直しを行う。生徒の解答に対しては、追求する発問を重ねることで、表面的な理解ではなく、深く思考させる工夫に取り組む。 ・学習内容定着のための振り返り活動を行っていく。Chromebook を活用して、配信や課題の提出をさせていく。
3 年	・発問に対しての発言などは消極的な生徒が多い。 ・課題に関しては積極的に取り組む様子が見られ、より良い解答を目指して質問する生徒もいる。 ・区の学力調査の結果では、理解をもとに考察、資料をもとに考察や判断、説明などの「活用」の正答率が他の数値に比べると低くなっている。	・用語の意味や社会的事象の理解といった基礎的な内容の定着のために、配布プリントやミライシードのドリルパークの反復に取り組ませる。 ・授業において、資料を読み取らせることから見えてくる社会的事象について、意見交換、記述するといった授業の展開を行う。資料の提示等でChromebook は活用していく。 ・学習内容定着のための振り返り活動を行っていく。Chromebook を活用して、配信や課題の提出をさせていく。

3 数学科

目指す生徒像を基にした育成したい算数科で資質・能力		
・事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する能力 ・数学を活用して事象を論理的に考察する力		
学年	現在の状況	改善のための取組
1 年	・数学に苦手意識をもっている生徒、計算が苦手な問題を解くのが遅い生徒が多い。 ・区の学力調査によると数と計算や変化と関係が苦手なようである。特に小数・分数の計算は目標値より 5 ポイント低くなっている。	今年度も関数の分野を苦手とする生徒は多い。ミライシードのオクリンクなどを利用し、意見を交換しながら内容理解を深めたい。デジタル教科書やプロジェクターを利用し、視覚的に分かり授業を展開したい。さらに、習熟度別少人数指導を活かし、問題レベルや問題量の設定をしていく。
2 年	・学習に対して苦手意識をもつ生徒が多い。 ・授業時間内では内容を理解しているが、知識の定着や内容を活用することに課題がある。	・基礎的な内容の定着のために、問題集、演習プリントやミライシードのドリルパークの反復に取り組ませる。 ・授業において、関数の単元ではプロジェクターの機能を用いてグラフの作図などを行い、ミライシードのオクリンクやムーブノートを活用して、意見交

	・区の学力調査では、比例・反比例、データの活用など、グラフ関連の問題を苦手としていることが分かった。	換や考えの共有を行っていく。
3年	・学習に対して積極的に取り組もうとする生徒が増えた。 ・課題に関しても積極的に取り組む様子も見られ、定期考査の計算問題の正答率が上がった。 ・区の学力料差の結果では、学年の基礎問題の正答率が目標値より低く、個々のデータを比較すると個人差が例年よりも大きいことわかった。	・式の計算といった基礎的な内容の定着のために、問題集、演習プリントやミライシードのドリルパークの反復に取り組ませる。 ・授業において、オクリンクやムーブノートなどのICT機器を活用して、協働的な学びができる課題設定を行う。 ・単元ごとの振り返りを、Googleformsなどを活用していく。入力や修正の手軽さを重視して、表現力を向上させる。

【豊島区立千川中学校】

4 理科

目指す生徒像を基にした理科で育成したい資質・能力		
・知識としての学習ではなく、現象の原理を理解しようとする姿勢 ・学習内容を基に、深く考える力 ・自分の考えを相手に伝える力		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	・授業で習った内容をその時間中は理解しているが、知識の定着ができていない。	・繰り返し学習を通して、知識の定着を図る。また、単元末プリントなども活用し、アウトプットする場面も多くなり、定着度を把握していく。
2年	・授業で習った内容をその時間中は理解しているが、知識の定着に課題がある。 ・他者と積極的に意見交換することはできるが、自分の意見をもって説明する力に課題がある。	・繰り返し学習を通して、知識の定着を図る。また、単元末プリントなども活用し、アウトプットする場面も多くなり、定着度を把握していく。また、授業の内容をクラスルームで閲覧できるようにすることで生徒が復習しやすい環境を構築する。 ・他者と意見交換する前に自分で考える時間を今までよりも多くなり、自分の意見を相手に説明できるようにしていく。
3年	・小集団で意見交換を行い、考えを深めることはできるが、それを相手にわかるように説明することが苦手な生徒が多い。 ・既習事項と現在の学習を関連付けて考察する力に課題がある。	・考えた意見を発表する場（ワールドカフェ方式やムーブノートなど）を用いて他者に自分の考えを伝える機会を意図的に増やしていく。 ・既習事項と関連付けて考察できるようにするために、過去の知識の振り返りを行う。また、考察する力を育むために、考える時間を授業で多く取り入れる。（ミライシードなどを活用）

5 音楽科

目指す生徒像を基にした音楽科で育成したい資質・能力		
・基礎的・基本的な知識及び表現の技能を身に付ける。 ・曲想や音楽の特徴を感受し、工夫しながら表現することができる。 ・楽曲が作曲された歴史的な背景や、作曲者について学び、深く考え、感じ捉えたことを文章で表現することができる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	歌唱について、積極的に楽しんで取り組む生徒が多い。表現のための基礎的な知識を積極的に吸収し、表現に結びつけることができる。	基礎的な知識を身につけ、楽曲の特徴を捉えて表現できる機会を多く作る。楽曲について深く考え、感じ取って文章にできるようにする。Chromebook 等を利用して、自分の考えをまとめる。
2年	歌唱に積極的に取り組むクラスと、消極的なクラスで差がついている。伸びやかな発声で歌う技術を身に付け、表現の幅を広げさせたい。聴いて感じたことを自分の言葉で表現することが苦手である。	発声の技能を見につけ、伸びやかに歌唱表現できるようにする。楽曲を聴いて、どのように感じるのか、Chromebook などを利用し、表現する機会を多く作り、さらに表現を深めることができるよう指導していく。
3年	一生懸命に取り組む生徒が多い。歌唱も楽しんで取り組みことができる。鑑賞についてのワークシートなどにも深く感じ取って表現できる生徒が多い。	進路決定に向けて積極的に取り組む生徒も増えていく中、さらに合唱や鑑賞に真剣に取り組む、感じ取ったことをより深い音楽表現につなげられるよう、Chromebook 等を活用して、自分の感じ取ったことを表現し、他者の考えも知ることによって、さらに自分の考えや表現を深める。

6 美術科

目指す生徒像を基にした美術科で育成したい資質・能力		
・表現活動に対し、自分の意図に応じて表現方法を追求して創造的に表現できる資質、能力を身につけたい。 ・各表現活動に対し、全体の主題の意図を理解し、その中から主体的にテーマをみつけ設定できる資質、能力を身につけたい。 ・絵画や彫刻だけでなく、自分の周囲の風景の変化やその変化に気づいたり、日用品の用の機能に関心を持ったりできる資質、能力を身につけたい。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	・図工から美術へと作品を掘り下げて自分で考え、工夫するように表現方法を広げたい。	・色彩の学習等、日常の中にある美術に関わる工夫を指導したり、図工で得た経験が美術の表現活動の基礎になっていること各題材ごと取り上げていく。Chromebook 等を活用して、自分の感じ取ったことや学んだことを表現したり、作品発表を通して他者の考えも知ることによって、さらに自分の考えや表現を深める。

2年	・授業に集中できる時間も増し、自ら考えて工夫し、それを作品に表現することに対してよく理解できている生徒が多い。	・発想面・技能面評価に評価の偏りがでないよう年間の指導計画で課題の設定を考える。Chromebook等を活用して、自分の感じ取ったことを表現し、他者の考えも知ることによって、さらに自分の考えや表現を深める。また、新しい技能を学び、身につけ、自分の創りたい作品の幅を広げる。
3年	・課題ごとに自分なりの工夫やテーマをじっくり考える生徒が多い。また、作品に対する自分の思いと表現の方法が見つからず自己解決できない生徒もいる。そのために教師にアドバイスを求めることが多くある。	・発想面・技能面評価に評価の偏りがでないよう年間の指導計画で課題の設定を考える。 ・Chromebook等を活用して、発想を広げるためのマッピングや、9マス等の表を制作して可視化することで、自分の発想の筋道を考え試行錯誤し、全体と部分を確認してそこから感じ取ったことを表現出来るようにする。さらに、他者の考えも知ることによって、さらに自分の考えや表現を深める。

7 保健体育科

【豊島区立千川中学校】

目指す生徒像を基にした保育体育科で育成したい資質・能力		
・各運動の技能、健康・安全についての理解及び課題発見とその解決に向けた思考・判断、他者に伝える力。 ・運動に親しむとともに、健康の保持増進と、体力の向上を目指す。明るく豊かなスポーツライフの実現。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	やるべきことへの取り組みを理解し、行動できるようになってきたが、行動を起こすまでに時間が掛かる。	リーダーを育て、生徒間で声を掛け合い、動けるように個人個人に具体的な指示を出す。Chromebook（フォーム）を活用し授業の振り返り、ミライシードのオクリンクを活用し、技能の振り返りをおこなう。
2年	活動に対して意欲的に行動できる。指示を聞き、お互い声を掛け合い協力することができる。自分を高める動きが更に出てきた。	自ら考えて、周りとのコミュニケーションを取り合い協力できるようにグループ活動を増やす。Chromebook（フォーム）を活用し授業の振り返り、ミライシードのオクリンクを活用し、技能の振り返りをおこなう。
3年	活動に対して主体的である。できることを精一杯行おうとする生徒が多い。体育係を中心に全体の動きに合わせて速やかに行動できる生徒が多い。	時間を見通して、自ら判断し、行動できるように振り返りシートを活用する。Chromebook（フォーム）を活用し授業の振り返り、ミライシードのオクリンクを活用し、技能の振り返りをおこなう。

8 技術・家庭科

目指す生徒像を基にした技術・家庭科で育成したい資質・能力		
自ら問題発見、課題設定、課題解決することができる力を育む。 ＜技術＞その過程で、機械や工具の正しい扱い方、生命の大切さについて学ぶ。 ＜家庭＞生活に関わる知識・技能を身に付け、生活を豊かに創造する力を育てる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	＜技術＞座学の授業では、配布のプリントと学習ノートを使用し、授業を行っており、材料の特性などしっかり書けていた。製作では、設計図通りのものが製作できるかどうか確認し、作業を行っている。現状では、大きなケガなく機械や工具を扱えている。 ＜家庭＞体験的活動の機会が少なく、実践が伴わない生徒が多い。	＜技術＞授業の最後の振り返りを紙で行っており、紙を提出せず、なくす生徒がいるため、Chromebookを使い、授業内で使用した工具もしくは機械と反省をChromebookを使用して記入し提出する。 また、工具の扱い方などいつでも振り返ることができるように実際に教員が使用しているところを動画にし、クラスルームなどに投稿する。 ＜家庭＞指導を工夫しながら、製作実習を通じて技能を身に付けさせる。
2年	＜技術＞座学の授業では、グループワークなどをしっかりと行えており、質問に対して、しっかりと答えることができる生徒が多い。製作では、おしゃべりが少し多いが、しっかりと作業を行えており、ふざけて作業する生徒はいない。 ＜家庭＞製作への興味・関心は高いが知識の定着に課題がある生徒が多い。	＜技術＞授業後の振り返りはもちろん、生物育成する技術の分野では、実際に栽培を2回行う。その記録をChromebookを使い、総まとめ2回レポートを提出する。1回目は、問題発見・課題について設定するよなレポートを提出し、2回目は1回目との違いや、問題・課題解決ができているもしくは新たな問題・課題が発見できているレポートを提出する。 ＜家庭＞授業ごとにワークノートを活用して、知識の定着を図る。
3年	＜技術＞座学の授業では、とても静かに受けている。理屈をしっかり理解したい生徒が多い。製作では、はんだづけを黙々と一生懸命の取り組んでおり、一度、2年時にははんだづけをやったことがあるからか進行具合にあまり差はない。 ＜家庭＞作品製作において、技能や自身の工夫を行うことに個人差がある。	＜技術＞情報技術の授業では、Chromebookを使用してプログラミングを行う。授業後の振り返りのときにプログラミングの進捗の写真を反省とともに提出し、随時、生徒の進捗状況の把握、生徒の進行具合にあまり差ができないよう努める。 ＜家庭＞製作実習を通して、一斉指導に加え個別指導の機会を積極的に設ける。

9 外国語科

目指す生徒像を基にした外国語等で育成したい資質・能力		
身につけた知識や技能を場面に応じて活用し、自ら進んで様々な環境で多様な人とコミュニケーションをとれるようにする。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	会話練習や音読練習など、授業内では意欲的に取り組もうとする生徒が多い。一方で基礎基本の定着が不十分な生徒もいる。基礎基本の定着を図るとともに自分や身近な人について、正確に表現する力を身につけることと家庭学習の時間を増やすことが課題である。	授業内では単語、基本文、教科書の本文について繰り返し練習を行い、基礎基本の定着を図る。また、復習が中心となるような授業展開をし、自己表現の場面を設定する。家庭学習として、デジタル教科書を活用して聞くことや読むことを学習させ、ノートに自筆で書く課題を提示する。また授業内外で発表する場面を増やし、自分や身近な人について表現する力を養う。
2年	授業中、口頭での活動にも積極的に取り組む生徒もいる一方、スピーキング活動に苦手感があり、ペアワークでのやりとりにも積極的に発言しない生徒も多い。基本的な単語や文法の習得が不十分であるため、Reading や Writing の分野で初歩的なミスが多い。	教科書の新出単語をノートに書かせ、定着を図る。基本的な文法や単語の知識を使ったダイアログ指導をテンポよく行う。日常的な話題などについて、事実や自分の考え、気持ちなどを簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにし、学習意欲を高めていく。ICT 機器を活用し、オンライン教材やデジタルドリルを取り入れ、生徒の学習ペースや理解度に合わせた個別最適化を目指す。
3年	学力調査では、「思考・判断・表現」の「書くこと」、「知識・技能」においては特定の文法事項において「書くこと」が特に全国平均を下回っている。基礎・基本の延長線上に「思考・判断・表現」や「活用」があるが、基礎・基本の定着が不徹底であることがその下回りの原因であると思われる。	引き続き、単語の定着演習・教科書暗唱による activerecall や chunk Reading による口頭英作文などの演習によるインプットの時間を重視し、基礎的な英語力の定着を目指していきたい。基礎の積み重ねが、思考力・判断力・表現力をさらに高め、学習している英語を使える英語にできるという事を、インプット・アウトプットの活動で理解させながら学習意欲を高め、振り返りにもさらに生徒が集中して打ち込める環境作りに努める。

10 特別の教科 道徳

【豊島区立千川中学校】

目指す生徒像を基にした道徳科で育成したい資質・能力		
・知識だけで終わるのではなく、実生活に生きる考え方や行動力を身につける。 ・他者とのより良い人間関係を形成する力を育成する。 ・人権尊重の理念を広く定着させ、差別意識を解消できる態度を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	教科書を活用し、学年教員によるローテーション授業を行っている。自分の	毎時間、グループでの話し合い活動を作り、消極的な生徒の発言を促すようにしている。授業の終わりには、必ず振り返りをいれ、自分の考えを確認でき

	考えを発表することができる生徒がいる一方、消極的な生徒もいる。	るようにする。
2年	学年教員によるローテーション授業を行い、各担当者が様々なアプローチで授業を行っている。進んで発言する生徒もいる一方で、積極的ではないが、指名をすると自分なりの考えを発表できる生徒も多くいる。	オクリンクやムーブノートを活用し、生徒の個々の考えを共有しながら、自身の考えに活かせる工夫をする。また、進んで発言する生徒以外の考えも、ICTを活用することによって、多様な考えを得られるように工夫する。
3年	道徳的課題について、他者の意見を聞くことで様々な観点から考察し考えを深める力がついてきた。	授業ごとに班で考察する発問を導入し、意見交換することで、自ら考え、感じる力を高めていく。

11 総合的な学習の時間

目指す生徒像を基にした総合的な学習の時間で育成したい資質・能力		
・SDGs 学習の探求に向けて、様々な事柄を「知る」こと ・地域人材を活用した体験学習を通して、自分のキャリアや平和について考える態度を養う。 ・校外学習の事前・事後学習を通し、仲間と協同する態度や、考えをまとめ、発表する力を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
1年	学習の取り組み方・定期考査の受け方を学習させ、横浜移動教室に向けて、横浜の歴史や港湾としての機能、世界とのつながり等を調べ学習として取り組んでいる。	「将来の見通し」「働くことの意義」「職業調べ」等のキャリア教育を実施し、自らの適性と卒業後の進路について考えさせていく。インターネット等のメディアを活用し情報収集する力やプレゼンテーションを通じて、目的や場に応じて適切に発表する力や即興に話す力を育成していく。
2年	キャリア教育を通して、仕事について学習を進めている。パナソニックの出前授業、保護者による職業講話などの体験活動を積極的に取り入れ、卒業後の進路選択の一助となるように取り組んでいる。	卒業後の進路(上級学校や仕事について)について、知識と体験を多く取り入れていくため、出前授業などの外部の力を積極的に活用したい。校外学習などの機会を活かして、生徒それぞれが「じぶんごと」にできるよう、取り組んでいく。
3年	調べ学習、校外学習、宿泊行事の経験を通して、主体的に行動する力がついてきた。進路について意識を高める。	修学旅行の行動計画や自らの進路について調べる中で、計画を細密に立てることの大切さを理解させる。

12 特別活動

目指す生徒像を基にした特別活動で育成したい資質・能力
・集団生活を通して、中学生としての振るまいを学ぶ

- ・集団の中で役割と責任を与え、集団生活の向上に努める態度を養う。
- ・生徒会、委員会活動を中心としていじめ防止を呼びかけ、他者の人権に配慮した行動・言動ができる力を養う。

学年	現在の状況	改善のための取組
1年	学級活動や委員会活動・部活動に積極的に取り組み、責任を果たそうとしている生徒もいるが、自主性や責任感の弱い生徒もいる。	自主性やリーダーシップが育つように、行事や学級・委員活動などで全ての生徒に役割をもたせ、協調性や自主性をさらに伸ばせるよう声かけしながら活動させていく。
2年	1年次よりも落ち着きがみられるようになった。行事ごとに積極的な生徒が多い。絶対的リーダーがいない。	運動会や文化祭などで集団の活動を通して、生徒主体で率先して行動し、学年のリーダーとして活躍できるように取り組む。また、ミドルリーダーの育成にも力を入れる。
3年	クラスの話合い活動では、学級委員が司会を行い、良い雰囲気で行われている。また、設定された課題においても前向きに取り組んでいる。	班・学年のリーダを中心として更に生徒主体の取組を増やしていく。また、調べ学習の発表などにおいても、他者を認め、達成感、自己肯定感を高めさせていく。

【豊島区立千川中学校】

13 交流及び共同学習の進捗状況

学年	現在の状況	改善のための取組
1年		
2年	対象学級なし	
3年		